

## 第9節 卒論（発表会，ポスターセッション）・ 卒演・卒展の場合

### A 卒業論文について

4年次になると，卒業論文の作成が必須の科目となり，各々のコース・専修の卒論指導担当のもとで，研究論文に取り組む事になる。ただし，その課題は教育学・心理学・国語・算数・理科・社会・体育・情報・幼児教育学での論文

作成中心のものと音楽や図画工作、書写書道といった芸術系の演奏発表や創作中心のものとは異なるため、前半は論文中心の卒論について、後半は芸術系中心の卒論についてそれぞれ説明する。

## 1. 卒論の意義とテーマ決め

学生はこれまで、受験勉強や試験勉強など目先の結果を得るための知識の詰め込み学習は体験しているであろう。しかし、卒論研究は勉強とは違い、自分の興味や動機を元に、研究対象を決めて探求し、その成果を周りに幅広く問う事ではないだろうか。「学問の要諦」として、子思は表1のようなことを述べている（森田，1997）。卒論研究は本学科では個人で行うが、専門を同じくする者同士が専門家の指導により、知的探求の過程で語り合い助け合う事の大切さをこの文言は示している。そして、物事をみていく自分なりの視点や価値観をもち、それがその後の状況把握や事象の理解、問題解決につながるなど、その学問が社会的文脈に還元され、また、できれば社会貢献となっていく事が理想であろう。

表1 学問の要諦「中庸」（子思）

博学	博く他人から学び
審問	わからないことがあったら、 <sup>つまび</sup> 審らかに質問し
慎思	慎んで考えてみる
明弁	明らかにそうだ、いやそうではないと弁別し
篤行	確信できた事を <sup>あつ</sup> 篤く行え

本学科の特徴として、学生は2年次から所属したコース・専修において、専門科目を学習してきている。特に「教育学／心理学／教科教育学／幼児教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、その専門の理論や実践、文献購読、研究方法を少人数で、教育指導をうけ、また学生自身も課題に取り組みレポート報告を行ってきている。そして、講義の学習内容をより実践できうる教育実習とそれを反省し皆で討論する実習報告会も体験している。

このように学習と技能獲得、実習体験を経て蓄積してきた3年間の知識や能力は、教員になるべく資質の基盤となっている。それをさらに高め、専門内容への自分の興味を探求し、疑問を解明する。そして新たな独自の見解や視点を

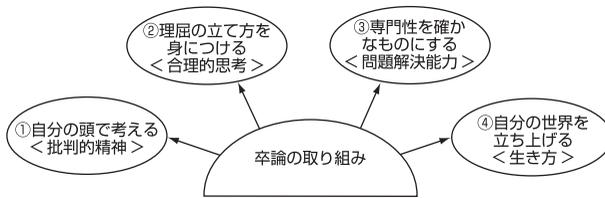


図1 卒論は役立つ

(白井・高橋, 2008)

提供していくために、4年次で約10ヶ月間の卒論研究に従事する事になる。一人一人の興味や動機を生かすため、より個性の伸張や社会への主張が可能となるであろう。また、研究していく事で自分の専門性が錬磨され、新たな発見をすることができるであろう。白井・高橋(2008)は、卒論は「実際に専門知識を使ってみることにより、大学で学んだ専門知識を体系化し、問題解決の方法論として身につけるためのもの」と述べている(図1)。

卒論以外にも、4年次は教員採用試験、企業への就職活動や大学院進学といった進路のことも大きな課題として迫ってくる多忙な年でもある。両方のことをバランスよくこなすためのエネルギーの配分、そして計画性が求められる。

卒論への不安を多くの学生は感じるかもしれないが、4年次に全員が取り組んで提出し、評価が合格した全員が卒業を認められてきている事からも、本学科学生であれば可能な作業なのである。そして、文献研究、研究計画、研究実施、論文作成を経て、1冊の本に仕上げていく作業は、最初で最後の体験になるかもしれない。苦勞した分、達成感も大きいし、4年間の自分の学問の総括としても、金文字に値するものであろう。困難に思われるかもしれないが、指導教員の教育指導を受けながら、またゼミの友人との話し合い、友人からのアドバイスを受けながら、互いに啓発し合い思索を深めて、研究をまとめていってほしい。苦しみでもあり、喜びでもあり、大学生活最後の青春の思い出となっていくのではないだろうか。

## 2. 卒論作成から提出までの過程 特に教育心理学コースの場合

各コース・専修により研究対象やその方法等に違いがあるが、ここでは教育心理学コースの卒論に基づいて述べていく。なお、表2には平成21年度の卒論

表2 平成21年度の卒業論文作成と発表会スケジュール（●は学科共通）

時 期 / 日 時	内 容
H21年1月中旬～末	学生は自分の興味や動機をもとに、その関心ある心理学的事象の先行研究の文献を読み、卒論テーマを練る。その内容を簡単に発表する。
H21年2～3月	学生は多くの文献研究を通して、大まかな研究計画を考える。学生の希望テーマに適した指導担当を教員で話し合い、担当を決定する。
H21年4月初旬	指導教員の元で、卒論研究を本格的に開始し、進める。
H21年5月中旬	●卒論タイトルの提出
H21年10月9日15:00	●中間発表会レジュメ締め切り
H21年10月23日13:00～16:30	●中間発表会
H22年1月13日17:00	●卒論の学科提出締め切り 指導教員に提出する
H22年1月20日17:00	●卒論の大学提出締め切り 学科長宛に提出する
H22年1月22日15:00	●卒論発表会レジュメ締め切り
H22年2月8日16:40～18:10	コース内のみポスター発表（2～4年生、コース教員対象）
H22年2月19日9:00～16:30	●卒論発表会

作成に関するスケジュールを示した。●印は学科共通のスケジュールである。

### (1) ゼミ決定

各専門により、ゼミ教員が一人であるところはその先生が卒論担当となるが、複数いる場合は学生のテーマや希望を聞くなどして4年次の4月前までには卒論指導者が決定する。幼児教育コースは人数が多いので、テーマによっては他のコース・専修の教員の指導をうけることができる。

教育心理学コースの場合は、1月末に3年生が卒論のテーマについて先行研究の論文を購読し自分の研究動機・目的・方法をB5サイズ1枚にまとめて、「心理学演習Ⅳ」の際に、2回位発表し、その内容によって3人いる教員の中から担当を決めていく。この発表を討論する事で、動機や目的を明確化し研究が実施可能なものかどうか等を検討していく。2回の発表ともにあまりテーマが変わらない学生、一方で全く異なるテーマに変える学生など多様である。中には、興味のある2テーマについて発表する者もいる。かなりオリジナル性が高く、自分で実験方法や調査方法を創出する学生もいて、若いエネルギーと発想

の豊かさに関心することもある。この発表には2年生も参加し、3年生の研究動機や目的を知ることで、心理学研究に自分がより強く関与していく事を意識し、また将来の卒論への興味や動機をもってもらっている。この発表後、教員が話し合いテーマに応じたゼミ担当者を決定する。

## (2) 卒論テーマ

さて、いざ3年終わり頃になると、卒論テーマを決めること自体が最初の壁となり、ずいぶん苦勞する。多くの事を学び、体験をしてきたために、いろんな所に興味や関心があり目移りをしてしまう。そのために様々な文献にあたるわけであるが、読めば読むほどテーマが錯綜するかもしれない。頭の中で考えるのではなく、思いつくままに興味、関心、好奇心のある事象や問題を紙に書きだして見て、その関連を線でつなぐなどする。また、大きなテーマから連想する小テーマも線でつなぐなどすると、自分の考えや興味を把握する事になるかもしれない。マインドマップのようなものを作るのである。

研究テーマは、1月の発表でおおまかには決まっているが、4月からのゼミではその内容が少し変わってくる事がある。時には研究の実施が難しい事が分かり、文献研究の途中で他のテーマに大きく変わる学生もいる。よって、その内容をさらに研究可能なものに絞りこんでいき、研究方法の青写真を少しずつ描きながら、その研究の特徴を示すタイトルを決めていく。タイトルは5月中には決定し、学科に提出しなければならない。論文タイトルやその内容は履歴書に記す事もある大変重要なもので、タイトルは一旦決めて提出したら、安易

表3 平成20年度教育心理学コース卒論タイトル

心理教育的援助に関する研究
学級での満足度からなる不適応傾向と対処行動について
理想性格と現実性格の差異が学習動機に及ぼす影響
協同符号化が後の単独での想起に与える影響
青年期の精神的健康におけるアイデンティティとポジティブ・イリュージョンの関係について
背景音楽が協同記憶に及ぼす影響
認知者の性格特性が顔面表情の認知に及ぼす影響
認知者の特性と友人への対人認知との関連

に変えることは難しい。研究目的、対象、方法をよく考えて決めていく方が良いでしょう。参考までに、平成20年度の卒論タイトルをあげておく（表3）。この表をみると、卒論研究は記銘や想起といった学習心理学、学級での満足度といった教育心理学、対人認知などの社会心理学や精神的健康や適応といった臨床心理学など、心理学の幅広い領域に、各々の学生が研究に取り組んでいることがわかる。

### (3) 文献研究

多くの論文研究ではこれまで行われてきた先行研究の文献研究を最初に行う。書籍、新聞、雑誌、視聴覚資料、インターネットなど情報を取得するには大変便利な時代である。図書館は情報の宝庫なので、足繁く通う事をお勧めする。また、司書の先生も文献検索や資料について指導や援助をされるので、アドバイスや書籍とのつきあい方などを教えていただくのも良い事だと思う。

情報収集は研究には必須の事であるが、情報が夥しいために文献にあたればあたるほどそれに左右され、困惑し、研究動機や目的が見えなくなる事がある。多くの文献にあたる事は大切であるし影響もうけるのは当然である。ただし、常に自分の研究動機や興味を意識し、そして、それを研究目標へと収束していく事を念頭において、文献を位置づけていく事が望まれる。

### (4) 中間発表会

卒論研究を進めていく過程において、研究成果の途中の段階を全体に向けて発表する機会がもうけられている。表2にあげたように「中間発表会」が10月下旬に行われる。

1人の先生につき、ゼミの仲間たちにはレジュメ等で研究内容の進捗を聞いてもらっているであろう。しかし、これは全体に向けて、B5サイズの用紙1枚にその時点までの研究で理解したことや研究の進捗<sup>しんちよく</sup>状況をまとめて発表する。時間は1人5分で、5人が発表したところで、その5人に向けて10分間の質疑応答がなされる。

自分の専門以外の先生方や学生達から、学年を超えて様々な質問や意見、感想が飛び交い、討論がなされていく。そこでの討論から客観的な評価や示唆をえて、自分の考えや理解が刺激されたり、自分の考えが他の人には通じないことに気づいたり、あるいは、より思索が深まる意見をもらうこともあるであろう。

う。また、研究の問題点が新たに見つかるなど、大変有意義な振り返りの時間とその後の方向性を見いだすチャンスとなっていくものと思われる。

### (5) 卒論提出

卒論提出は、表2にあるように、二段階に分かれている。最初は、ゼミの教員に提出する「学科提出」。この時点で95%~100%の完成を目指したい。研究室によっては、前年の12月末に完成論文の提出を義務づけているところもある。頭の中にある計画通りには、決して順調に研究は進まない。焦る気持ちばかりで筆が進まないというスランプに陥ることもあるであろうし、実験や調査によっては思うようには結果がでないということも出てくる。

様々な試行錯誤、紆余曲折の果ての「学科提出」である。この仮提出を指導教員が一読し、内容や書式の修正などの指導が入るであろう。中には、その指導が要らずに、そのまま本提出となる学生もいる。指導が必要な学生は、「本提出」までに修正や追記を行い、再度、指導教員にみてもらう。

大学への「本提出」は当然ながら、提出締め切りは厳守される。これを過ぎれば、大学は受け付けないし、卒業ができない。期限遅れはこれまでのレポート提出では許されることがあったかもしれないが、卒論提出については許容されない。大学4年という社会人の一歩手前にいる個人として、時間厳守という最低限の規則を遵守することを肝に銘じておきたい。

### (6) ポスター発表について

卒論発表会の前に、教育心理学コースではコース内発表会を毎年行っている。

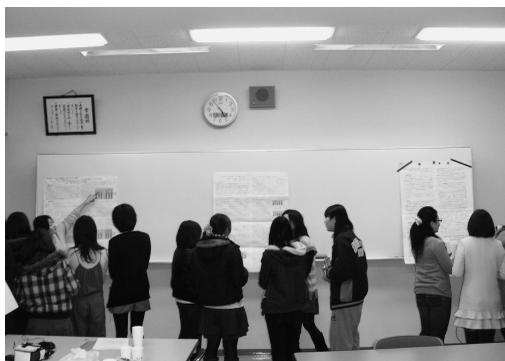


写真1 ポスター発表会

他のコースや専修でも、事前の発表会を行っているが、本コースの特徴として学会発表の一形式でもあるポスター発表を行う。写真にあるように、1 m × 1.3 m 大の用紙に、問題・目的・方法・結果・考察の要点をまとめ、図表も含めて掲示する。その前に発表者が立ち、参加したメンバーは、興味ある研究ポスターの所にいき、自由に質疑応答を行うことができる。大勢の前であると感じにくいことも、身近で様々な質問や意見をすることができる。4年生は自分たちが1年かけてきた卒論について、丁寧に誠実に対応している。2～3年生はやがて自分達が出会う卒論への興味や不安をもとに、4年の説明を聞いたり、質問をしたりしている。その情景の中で4年生は、研究に興味や関心を持ってもらう喜びとやり遂げた達成感や自信に満ち溢れている。大変成長した姿がそこにはある。

### (7) 卒業論文発表会について

中間発表ではB5サイズの1枚のレジュメであったが、本発表ではB5 × 2枚分のレジュメを作成する。中間発表と同じく、ゼミ以外の教員や全学年の学生参加の元に行う。時間は1人15分でその内5分の質疑応答の時間が組まれる。中間発表会と同じように、5会場に分かれて、1会場あたり20人が発表する。終日かかる学科の一大行事である。

卒業論文の要旨だけではあるが、1年かけてきた研究の発表であり、また、教員と全学年の学生が参加するため、専門以外の人にも限られた時間で理解しやすい発表をしなければならない。膨大な研究内容から取捨選択を行い、筋の通った起承転結のある原稿をまとめることが望ましい。発表者はスーツに身を包み、普段の教室は学会発表さながらの緊張感が漂う晴れ舞台と変わる。

発表会が終わると、論文を製本に出し、他の講義の試験等も終わり、あとは卒業判定をうけ、卒業を待つだけの身となる。

## 3. 最後に

研究し論文を書くということは大変な労力と時間が要され、卒論がない大学も多くなったと聞く。しかし、大学は最高学府であり、立派な社会人を養成する教育機関である。自分の体験や興味、専門を探求し思考し論述していく能力、研究を体系化し編纂していく能力、自分の意見を主張し他者と討論する能力な

ど、卒業論文作成過程において、学生はその後の実社会でも役立つ、大変多面的な能力を総合的に発達させる事ができる。自分の興味関心を追求し自分の手で発見していく喜びも同時に感じることができる卒論にぜひ意欲的に挑戦して行ってほしいと思う。

#### 引用文献

森田琢夫 1997 論語で仕事が生きる 廣済堂

白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房

(浴野雅子)